

石仏あれこれ

シリーズA 石仏を訪ねる

A7 鶺鴒川四十八体仏 1977

森隆一



(びわ湖高島観光協会 ホーム・ページより)

(トリミングし、解像度を下げた)

A7. 鵜川四十八体仏 1977

この頃、勤務先の職員寮が北小松にでき、ここで1泊の懇親会を行うことになった。この寮は数年で廃止された。場所は湖西線北小松駅から、迷いながら歩いても15分程度であったと記憶している。現在北小松公民館が建っている辺りである。

A2 坂本・慈眼堂 I 1976 で引用した記事からは、ここ鵜川から13体を慈眼堂に移したということで、どんなものが残っているのか気になっていたのも、懇親会の翌日解散後、鵜川四十八体仏を訪れた。

滋賀・琵琶湖 観光情報 > 「鵜川四十八体石仏群」では

白ひげ浜付近で国道161号線を逸れ旧西近江路を北進すると、草深い山中の墓地に、高さ1.6m、花崗岩の阿弥陀如来像群が見られます。東を向いて静かに並んで座る石仏は、大きさも少しずつ異なり、慈愛に満ちた顔・あどけない顔・ユーモラスな顔など、姿もそれぞれ異なっています。近年までは、室町時代後期に観音寺城(現安土町)城主の佐々木六角義賢が亡き母の菩提を弔うため、観音寺から見てちょうど対岸に1553年に建立したとの説が有力でしたが、京都冷泉家の冷泉為広の「為広越後下向日記」の記載から1491年には既に存在が知られており、さらに地元の古文書「小松之庄与音羽新庄与境論目録=伊藤家文書」に1436年の境界争いの記録に「四拾八躰」の文字が見られることから、従来の説を100年以上遡ることが分かってきまし

た。その由来は、再び謎に包まれることになりました。

現在、鵜川には 33 躰安置されており、13 躰は江戸時代に移されて大津市坂本の慈眼堂に、残り 2 躰は行方知れずになっています

鵜川四十八体仏は、白髭浜水泳キャンプ場の 161 号線の反対側の小高い所にある。最寄りの駅は北小松の 1 つ北の近江高島で、駅前の道を南に歩いていけば、そんなにかからずに白髭浜水泳キャンプ場に行き着く。

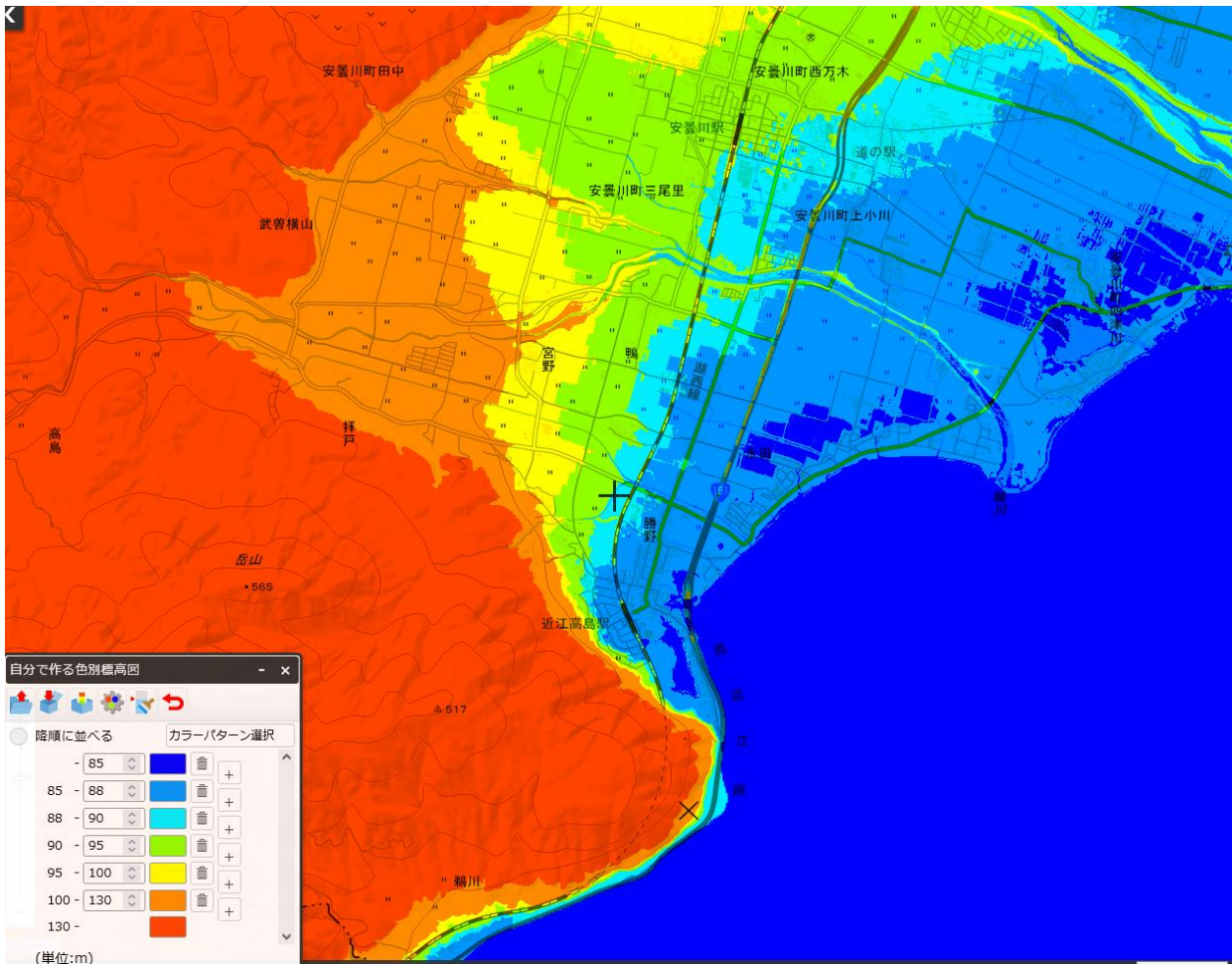
当時は、161 号線の高島バイパスは白髭浜までで、その先は工事中で、車は旧白髭浜に行くようになっていたと記憶している。

正史を彷徨う 19.2 節で、琵琶湖の水位を考察した。ここで、‘琵琶湖において安全な標高は、江戸時代でプラス 5m、古代ではプラス 10m と考える’ という結論を得た。

地図からは、近江高島駅の乙女ヶ池があり、高島バイパスと旧 161 号線は池と湖の間を通っている。恐らく、乙女ヶ池は湾になっていて、琵琶湖に航行可能ではなかったかと思われる。

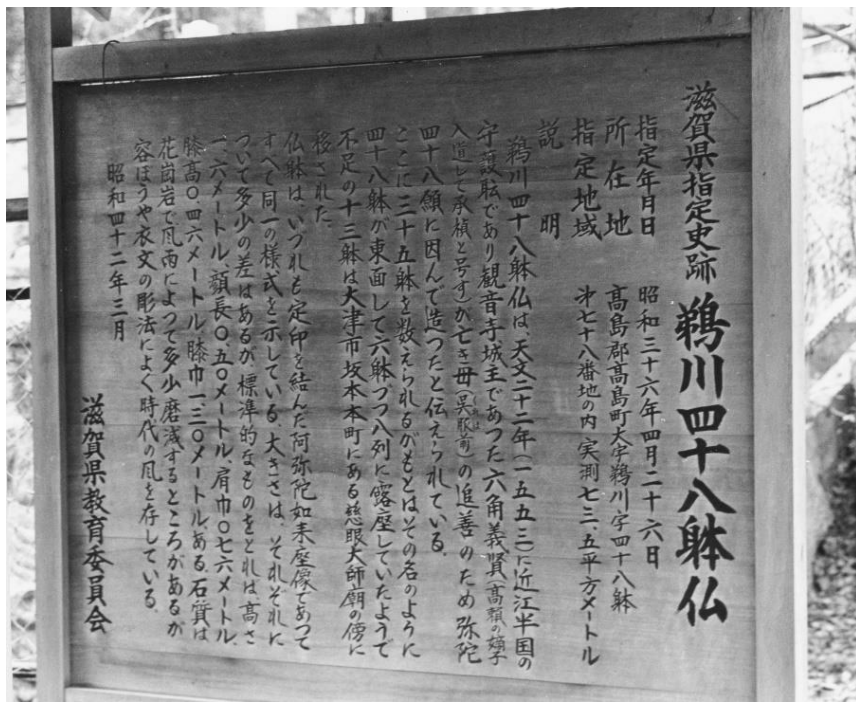
近江高島駅から続く平坦な部分はプラス 3m 以下である。161 号線の白髭浜辺りはプラス 5m、鵜川四十八体仏ではプラス 7m となっている。引用文にある旧西近江路は、鵜川四十八体仏から北上し、161 号線を通った後、高島バイパスと旧 161 号線の分岐点辺りから、山沿いを通っていたと考える。

次の図は自分で作る色別標高図である。中央下部の×印が鵜川 48 体仏である。



近江高島駅から続く集落が途切れるあたりで、道は高島バイパス(国道161号線)のみとなる。この先、高島バイパスは緩く湾曲している。この湾曲部を弓とすると、旧西近江路はその弦のようである。弦の中央部付近に鵜川四十八体仏があり、その奥が墓地となっている。

手前に写真のように由来が書かれている。



この由来書きの右側、石仏群の正面中央からみて、中央・左側・右側の3枚の写真を順に掲げる。

中央と思われる列には2体が配置されている。この左右に3列ずつある列は、1列5体と思われるが、これでは32体となるので、地勢から恐らく、右から2列目が6体でないかと思う。



上は中央の列である。左は手前の阿弥陀如来のポートレートであるが、丸顔ではなく角顔であること程度の差しかみあたらず、主諸んといった趣ではない。

上の写真の手前やや中央寄りに墓標仏らしき小石仏が見られる。悴付きの浅浮彫は珍しいが、何故この場所に置かれているのかわからない。

左と右の写真掲げる。



配置は‘阿弥陀様の集団が背中と膝を突き合わせて並んでいる’という状況である。感覚的には、並んでいるというより、押し込まれているに近く、無縁仏がまとめて置かれている状況に近い。

現在の Google Map では鶺川四十八体石仏は表示されていない。鶺川四十八体石仏で検索をかけると鶺川区・打下区 墓地と並んで表示される。

以下で、目に付いた幾つかの阿弥陀仏のポートレート掲げる。





写真を見ていて感じることは、首が短いか、角度によっては、首がないように見えるものもある。また、首が折れたものは少ないように見える。裏から撮った写真を探したが無かった。思えば、石仏の写真集で、裏から撮ったものを見た記憶がない。

Google Mapで‘鵜川四十八躰仏’をクリックし、サイド・バーで写真をクリックして現れる写真の中に斜め後ろから撮ったものが有った。何時まで有効かわからないがリンクを貼っておく。「[鵜川四十八躰仏裏側](#)」後ろからは首が見えず、頭がそのまま伸びているように見える。髪の毛が肩まで伸びていると思えば、不自然ではないが、如来の髪としてはありえない。後ろからは見られないことを前提として、首を折れない工夫を施したと考える。

龍門石窟を見て、感動したとともに、何か違和感程ではないが、妙な気分になったことを覚えている。Wikipediaの写真にリンクを貼っておく、「[龍門石窟主尊](#)」。この写真をみていて、上記感じの1つは、首が長いことではないかと思える。また、顔も西域的な気がする。首を長くできるのは、殆ど丸彫りに近いが、厚肉浮かし彫りによるものである。

最後に湖岸の写真を1枚掲げる。



これは、初めに述べた北小松の寮の近くの湖岸から撮ったもので、奥に見える山の右端の湖岸が白髭キャンプ場になる。

あとがき

‘城主の佐々木六角義賢が亡き母の菩提を弔うため、観音寺から見てちょうど対岸に 1553 年に建立した’との説は、何故対岸に造ったのかわからない。また、この 100 年前にあったということだ。

Google Map で付近を見ると、近くに打下古墳、北西の屋の上に打下城跡、北に降りたところに日吉神社が見られる。さらに、かなり西の奥に石造観音三尊 元獄岩屋観音が見られる。

Wikipedia「六角義賢」から

大永元(1521)年、六角定頼の嫡男として誕生。天文 2(1533)年、観音寺城で元服し、室町幕府 12 代将軍・足利義晴より偏諱を受け、義賢と名乗った。

父・定頼の晩年から共同統治を行ない、父と共に姉婿に当たる細川晴元を援助して、三好長慶と戦った(江口の戦い)。天文 21(1552)年、父の死去により家督を継いで六角家の当主となる。六角家は甲賀郡を含む近江国の守護であり、更に他国の伊賀国の 4 郡の内の 3 郡の間接統治も行っていた。

近江の城めぐり「[第 43 回 打下城・大溝城](#)」

打下城は永禄年間(1558～1569)に土豪の林与次左衛門員清が築城したといわれ大溝古城とも呼ばれています。麓にある日吉神社の参道口から山王谷を 1 時間ほど登

ると、高島平野と琵琶湖が一望できる山城に着きます。信長公記には 1573(元龜 4)年、織田信長が林与治左衛門所を陣所として高島郡を攻撃したと記されています。

その後、高島郡を手に入れた信長は、1578(天正 6)年、城下との行き来が不便な打下城を廃城とし、琵琶湖の内湖である洞海(乙女ヶ池)の近くに、信長の甥にあたる津田七兵衛信澄に命じて、明智光秀の縄張(設計)で大溝城を築きます。信澄の父は清州城で信長に殺された信長の弟、信行です。罪滅ぼしのために城を与えたのでしょうか。城は若狭方面からの攻撃に備え、有事の時には狼煙を揚げ、安土城の信長が琵琶湖を舟で応援に駆け付けることを想定していたと言われています。

ここまでで、由来についてはよくわからない。

ここで、阿弥陀如来→浄土宗→本願寺 と連想した。

本願寺の拠点としては、山科本願寺・吉崎御坊・石山本願寺がある。この他にということで、一向一揆を思いついた。

Wikipedia「山科本願寺」

本願寺第 8 世法主蓮如により、文明 10(1478)年から造営され、文明 15 (1483)に完成・建立。

Wikipedia「一向一揆」で主な一向一揆があったので、これを写す。

近江・金森合戦 (1466(文正元)年) 初の一向一揆

越中一向一揆 (1480(文明 12)年-1576(天正 4)年)

加賀一向一揆 (1488(長享 2)年-1582(天正 10)年)

享祿・天文の乱(大小一揆) (1531(享祿4)年)

畿内(奈良)一向一揆 (1532(天文元)年) 大和天文一揆

三河一向一揆 (1563(永祿6)年-1564(永祿7)年)

石山合戦 (1570(元龜元)年-1580(天正8)年)

本願寺第十一世・顯如が雑賀衆・浅井氏・朝倉氏・武田氏・上杉氏・

毛利氏などと連合して信長包囲網の中核を成し、各地の門徒と連動して

十年間に渡り織田氏を苦しめた史上最大の一向一揆

長島一向一揆 (1570(元龜元)年-1574(天正2)年)

越前一向一揆 (1574(天正2)年-1575(天正3)年)

近江・金森は守山市にあり、堅田の対岸である。この付近に本願寺の拠
点が鵜川にあったとするのは面白いが思い付き段階である。

写真を撮った1977年は高島町であった。高島町を調べた。

S18(1943) 高島町

S31(1956) 志賀町鵜川編入

H17(2017) 高島市

マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町

鵜川を除き、旧高島郡。南は志賀郡

ということであった。